

目次

記念誌発刊にあたって	……………	P2
○高の原の 50 年を写真で紹介	……………	P3~8
○年表	……………	P9~10
○まちづくりの計画	……………	P11~12
○開発と人口	……………	P13~14
○地区・地域の紹介		
・神功地区	……………	P15~16
・右京地区	……………	P17~18
・朱雀地区	……………	P19~20
・左京地区	……………	P21~22
・佐保台地区	……………	P23~24
・相楽台地域	……………	P25~26
・兜台地域	……………	P27~28
・桜が丘地域	……………	P29~30
○高の原トピック		
・ならやま小中学校の誕生	……………	P31~33
・地域の高等学校とのかかわり	……………	P34
・公園活性化と活用の取組	……………	P35~37
・住環境改善に向けた取組	……………	P38
○高の原の各種団体活動		
・平城西公民館	……………	P39
・平城東公民館	……………	P40
・高の原文化協会	……………	P41~42
・平城ニュータウンスポーツ協会	……………	P43~44
・民生委員児童委員協議会	……………	P45~46
○平城・相楽ニュータウンまちびらき 50 周年記念事業	……………	P47~49

1972年11月25日の平城・相楽ニュータウンまちびらきから50周年を記念して、まちを盛り上げるイベント（記念事業）などを進めるため、地域・事業者・行政が一体となり「平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会」が結成されました。

本記念誌は、記念事業の一つとして「記念誌編集部会」を設置し作成したものです。また、表紙の【高の原】は「まちの愛称募集事業」の公募から選ばれたまちの愛称で、その書は地元の書家、佐竹有沙子様に書いて頂きました。

『記念誌発刊にあたって』

半世紀前、平城山(ならやま)丘陵613haを開発し、計画人口73,000人の新しい街づくりが始まりました。

この事業を担った日本住宅公団の資料には、開発の基本的な考え方について「地区周辺の自然環境、とりわけ歴史的風土景観との調和を図ること、人口規模にふさわしい都市施設を整備することにより、`都市らしさ`を醸成し、多様化する現代の生活を営むにたるニュータウンを建設すること。」と書かれています。出来上がった街をみると、住宅配置、道路・歩行者専用道、公園・緑地、学校等のインフラは住民が快適な生活を送れるよう整備されています。そして、この新しい街に全国から人が集まってきました。

次は、集まった人々がこの街でどのような生活をするかです。人と人との交流が大切です。自治会が結成されてゆきます。社会福祉協議会等も結成されます。また、地域を跨ぐ文化協会、スポーツ協会も結成されました。その他様々な活動が営まれてきました。人口の増減等社会の変化によりそれら団体・施設のありようも変わります。今では、佐保台地区も加えて「高の原」と呼ぶ街になりました。

自らの手で街を創ってこられた先輩諸氏の活動を振り返り、また今の活動を紹介することにより、ここ高の原が今後も一層住民が暮らしやすい街であり続けることを願って50周年記念誌を発刊しました。

ご一読いただければ幸いです。

記念誌編集部会



彫刻家佐藤忠良氏とその作品

明治45年(1912)宮城県生まれの佐藤忠良氏は、昭和35年(1960)第3回高村光太郎賞を受賞するなど、現代具象彫刻を代表する彫刻家です。

昭和47年(1972)から始まった「帽子・夏」のシリーズは、簡素に引き締まった姿の中にほとんど風土感を感じさせない作品で、清爽な抒情感を表しています。平城ニュータウン事業完成記念として製作され、ふれあい橋に設置されたブロンズ像「夏」は、平和への願いを込めてつくられました。



「高の原駅」駅名の由来

万葉集に「秋さらば 今も見るごと 妻ごひに 鹿鳴かむ山ぞ 高野原の上」(万葉集 巻第一 八四 長皇子)とあることから引用して駅名としたものです。高野原は平城宮跡の北西に広がる松林の丘陵一帯、すなわち今の平城ニュータウンの南部がこの地にあたるといわれ、ニュータウンの核となる新駅にふさわしいとして駅名に採用されました。

高の原駅設置